

2026年の立春は2月4日です。

立春（りっしゅん）は、二十四節気において「春の始まり」とされる日であり、1年の始まりとも言われる節目です。

まだ冬の名残はあるものの、陽射しにやわらかさを感じられるようになり、春の訪れを告げる時期です。旧暦ではこの日がが1年の始めとされていたため、決まり事や季節の節目はこの日が起点になっています。八十八夜、二百十日、二百二十日も立春から数えます。



立春

冬至と春分の真ん中で、まだまだ寒いですが、暦の上では旧冬と新春の境い目にあたり、この日から春になります。

冬の季語に「三寒四温（さんかんしおん）」という言葉がありますが、それを体感するのは【立春】次節気の【雨水（うすい）】の時期になります。

その言葉の通り、

<寒い日が三日ほど続くと、その後四日間くらいは暖かい日が続く>という意味で、そうした日を繰り返し、徐々に暖かい日が続きながら、春へと向かっていきます。少しづつ陽が長くなるのに気が付き、地面に緑の伊吹を感じはじめる今日この頃。心も身体も少しづつ春の気候へ整えていきましょう。

立春の早朝、禅寺では、入口に「立春大吉」と書いた紙札を貼る習慣があります。「立春大吉」の文字が左右対称で縁起が良く、一年間災難にあわないといわれています。

和紙に墨で「立春大吉」と書いたお札を家の鬼門に

「厄除け」として貼っておくと、一年間災難に遭わないという「おまじない」もあります。

「立春大吉」という文字は、縦書きすると左右対称になります。家に入ってきた鬼が裏側からお札を見ても同じく「立春大吉」と読めます。そこで鬼が「まだ家の中に入っていないかった」と勘違いして引き返すことから、「厄除け」になるからだそうです。



「寒中見舞い」は立春の前日まで。

以降は「余寒見舞い」（2月下旬頃まで）になります。

「雨の中に 立春大吉の 光あり」 高浜虚子

寒さの殘る雨の立春に、玄関に貼られた「立春大吉」のお札が、春の光（希望）を放っているように見える様子を描いた作品。冷たい雨の中でも新しい季節の訪れと確かな希望を感じさせる、風情と生命力に満ちた句です。